

青木さんへ聞く

共に生き、再会する場所

浄土宗光昭院 吉水岳彦

2007年末から数ヶ月にわたり、「結の墓」を建立するための会議がもやいのサロン「こもれば荘」で行われました。第一回目の会議の折、元当事者である男性から語られたお話がいまも忘れられません。

「路上で生活するようになって、一度あらゆる縁を絶ってしまった。しかし、もやいの活動のおかげでアパート暮らしに戻り、ありがたいことに新たに親しい仲間も出来た。自分が死んだ時、この親しい仲間たちと一緒にどこかへ行くんだと思えば、僕は残りの人生をもっとしっかり生きられるように思う」と、彼は語ってくれました。

たかがお墓と思う人もいるかもしれませんが、「死」は若いも若きも関係なくやってきます。そして、その時は誰にもわかりません。そんな無常な世であればこそ、もしもの時、本当に大切な人と必ず同じところで再び会えるという約束してもらえるならば、これほど心強いものはないでしょう。

この世のお墓、そして次の世の極楽浄土は、この約束をかなえてくれる場所です。この世に遺る身体はお墓と一緒にあり、阿弥陀さまや観音さまのお迎えをうけた、その心は極楽浄土で再会するのです。「結の墓」での再会は人間の約束、極楽浄土での再会は仏さまのお約束。

この二つのお約束があればこそ、この世に生きるわたしたちは、極楽浄土に往った仲間といつでも会うことができるのです。すなわち、極楽の菩薩となった大切な仲間はこの世へ親しい友を導きに、わたしたちはお墓へその友人に会いに行くのです。お墓の前でお念仏を称えている時、仲間はぎっと仏さまと共に微笑みながら寄り添ってくれることでしょう。こんな風に、この世を離れた大切な仲間とずっと共に生きていけること、再び会えること、人生において大きな心の支えとなるものです。

人生における「結縁」と「終結」の二つの言葉から名づけられた「結の墓」には、現在5名の方が安置されています。この方々が、この世で縁を結んだ人と極楽で再会できるように、これからもみんなで一緒にお墓をお守りし、心からのお念仏をお称えしたいものです。

合掌 南無阿弥陀仏

吉水岳彦（よしみずがくげん）

東京都台東区生まれ。浄土宗光昭院副住職、ひとさじの会事務局長。
大正大学にて仏教、特に浄土学を学び、僧侶となる。
2006年より全国青少年教化協議会において青少年電話相談の相談員の研修を受ける。
2007年より青少年電話相談を学ぶかわら、生活困窮者の葬送支援・お墓プロジェクトに関わる。
2008年にお墓プロジェクトのメンバーと会議を重ね、光昭院へ「結の墓」を建立。
2009年、浄土宗正覚院徒弟原尚午と共に、お念仏の信仰をもって社会的弱者の支援を行う「ひとさじの会」を設立。

Q1・・・ホームレスの方や、身寄りのない方が亡くなられた場合、多くの場合、お墓はどうなるのですか？
A1・・・亡くなられてからその方の身元確認が行われます。これにより、幸いにしてご親族に引き取られ、そのお墓に入れていただくこともあるようですが、これは稀なことです。路上で亡くなられた方の多くは、火葬を執り行った業者が関係する霊園の無縁塔などに埋葬されます。

Q2・・・「葬送支援・合同墓プロジェクト」は、どのようなきっかけで進めたのでしょうか？
A2・・・路上で亡くなられた方は、火葬場の炉が空いたときに焼かれ、斎場や葬祭業者の持つ保管所に安置されます。NPOもやい・新宿連絡会・NPO新宿のメンバーは、ある仲間のお骨を受取りに行った際、ベトナムの一角にある雑然とした倉庫に安置されていたことに大変ショックを受けました。身寄りやお金がないことで、死してもなお大切にされることのない葬送の現実を目の当たりにしてお墓を建立しようと決意し、葬祭業者や僧侶とともに「葬送支援・合同墓プロジェクト」を発足しました。

Q3・・・どのような経緯でこの「葬送支援・合同墓プロジェクト」に関わり、進めてこられたのでしょうか？
A3・・・数年前から、新宿連絡会の新宿夏祭り前夜祭にて行われる追悼法要を浄土宗僧侶が執り行っており、その縁からわたしたち浄土宗の若手僧侶にご相談がありました。わたしたちは、社会的に弱い立場の方々に寄り添う活動を行う「ひとさじの会」を設立して身寄りのない方の葬送支援を行う僧侶をつるとともに、お墓を建立する場所を探しました。

合同墓の墓地選定で最も問題となったのはお墓の大きさについてでした。これについては、身寄りのない方の支援を行うNPOのメンバーや被支援者、葬祭業者、僧侶が一緒になって議論を重ねました。結局は、小さいながらも都内の墓地を求めることになり、台東区光昭院の墓地に決定しました。

山谷にある光昭院は昔からドヤで亡くなられた方のお葬儀を頼まれることが多く、住職も若いときには何度もドヤの一室でお念仏の

ご回向を行ったそうです。身寄りがない方のお墓を建立してもよいかと住職にたずねたところ、そのような経緯もあつたためか、墓地に加えて使用していない墓石も一緒にいただくことができました。今になって「結の墓」の建立を思い返すと、何か不思議な縁を感じます。

Q4・・・「結の墓」は、宗教が異なる方でも入ることができるのでしょうか？
A4・・・「結の墓」が完成してまもなく、NPOもやい代表理事の稲葉剛氏から山本さんのお話をうかがいました。山本さんがキリスト教の信仰告白を行ったことを聞いたときには、正直なところお納骨していただくべきか考えあぐねました。ただ、その一方で山本さんが、光昭院にある「結の墓」に入れると稲葉氏から聞き、涙を流して喜ばれたことを聞いて、このお話を引き受けようと思いましたが、本来は宗教の異なる方をお寺の墓地に納骨することはありません。

また、今となっては、山本さんがキリスト教の神様の国へ行くことを求めておられたのか、阿弥陀さまの極楽浄土を求められたのか、その真意を確認することはできません。しかしながら、山本さんの場合、最期に仲間とずっと一緒にいられて、しかも友人が手を合わせてくれる場所を光昭院の「結の墓」に求めました。それ故に、わたしは山本さんご友人や支援者のみなさまと一緒に称えるお念仏をもつてご回向することで、「結の墓」にお納骨させていただくことにしました。

阿弥陀さまは、その名前を呼び祈るもの一人ひとりをお守りして下さり、まるでみずから一人一人を見るかのような慈愛に満ちた眼差しをもつて守り育て、最期には極楽浄土へおいとってくださいます。ですから、必ずやお納骨の際のみなさまの祈る声を聞き、山本さんを導いてくださったことでもありましよう。たとえすでに山本さんが神様の国へ行ってしまったとしても、阿弥陀さまはわたしたちの祈る声と想いを山本さんへ届けてくださるに違いありません。そして、極楽浄土にいる仲間が山本さんに会いたいと願えば、必ずあわせてくださると、そのようにわたしは信じています。

合掌 南無阿弥陀仏



<出演>

山本弘孝
みっちゃん
村上知奈美
池座剛
峯岸可弥
小沢酒三
Yamato
めう
藤井武文
ヤマモト
稲葉剛

<ナレーション>

村上知奈美 池座剛

<企画>

村上知奈美

<撮影>

村上知奈美 pon 池座剛

<編集>

池座剛 pon

<写真>

村上知奈美 pon

<キャプション>

峯岸可弥

<音楽>

荒川仁 (作曲・監修) 神蔵守 (Guitar) かじやあい (Violin) 中川雅人 (Mix)

<楽曲提供>

no sounds 東京 Clockwise ヨシノカオル

<宣伝美術・パンフレット制作>

相原優

<監督>

村上知奈美

<製作>

東京ホームレス「歯みがきプロジェクト」

<Special Thanks>

まっくろくろすけさん 旅号さん フルタイム四苦さん さとしさん あっちゃん ビジュアル系トラッカーさん まあさん
こみみさん マイク加藤さん nettokyo 東京中央教会 光照院 吉水岳彦さん まきさん 生びーまんさん
NPO 法人自立生活サポートセンター・もやいの皆さん 山本さんを応援して下さった皆様

<撮影協力>

NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい 中央栄光教会 将八うどん 東京ユニオンチャーチ